

シリーズ 水にまつわる話 (3) — 太田町 —

田沢疏水は、田沢湖町、角館町、中仙町、太田町、千畑町、六郷町、仙南村の七ヶ町村に跨っています。順次各町村の水にまつわる話を執筆して載せ紹介します。第三回目は太田町です。



お宝

太田町公民館長

後藤 光 三

秋田では、ゴールデンウィーク頃から萌えいずる新緑が目に見え込みます。六月は、暦のうえで初夏となり、草や木々の葉が淡い緑から濃い緑にかわり植物がよく育ち、動物も活発に活動しはじめます。そして梅雨に入ります。この時期は、雨の日が多くあまり好まない人がいます。しかし、雨は自然の水となり、私たち、人間生活には大切な『水と緑』に恵まれた季節なのです。

ところで、地球上には、約一兆七の百万倍の水があります。水は気候の保持や生命の誕生維持に大きな役割を果たしています。その約九七％は、海水であり地球の環境保

全にとって欠くことのできない役割を果たしています。地球上の水の約三％が淡水であります。しかし、そのうちの八〇％が水であり、約二〇％が地下水で、河川水は〇・四％くらいしかありません。結局、河川水は、地球全体の水の約一万分の一となります。私たちがいろいろな水を使っていますが、最も使いやすい水は、流れている水即ち河川水であります。

地球上の河川水の量は、約一・三兆t、これを人口約五〇億人で割算すると一人当たり約二五〇tになります。私たちは、家庭生活用水(水道水)を一日約二五〇kg使いますから、河川水を一滴も漏ら

さずに使い、しかも農業にも工業用にも使わず、ひたすら家庭生活用だけに使ったとしても二五〇t割二五〇kgで一〇〇〇日。すなわち約三年しかもちません。

にもかかわらず、私たちがあまり不自由なく水を使いつづけていられるのは、それが一〇〜一五日に一度くらいの頻度で「水循環」が起こっているからです。つまり一年間に流れる水の量は、河川水と流れている地下水の現存量の二〇倍強、約三七兆tと考えられます。この水循環のおかげで、私たちは今のような形で生活や農業、工業に水を使うことができるのです。それを維持しているのは、太陽エネルギーによる蒸発と海での浄化機能であります。

地球上での水の蒸発量は、河川水の二〇倍近くです。この蒸発に必要なエネルギーはすべて太陽から得ているのです。水の蒸発と凝縮に関係するエネルギー量はとてつもなく大きく、河川水のすべてを燃料を使って蒸発させるとどのくらいのエネルギーが必要か計算してみました。一gの

水の蒸発に必要な熱量(エネルギー)は五四〇calで、石油一gの発熱量は一〇Kcalであるから、水一八・五gを蒸発させるために一gの石油が必要となります。年間三七兆tの水を蒸発させるために必要な石油の量は、二兆tとなります。

水は、飲み水をはじめ私たちの生活のさまざまなことに必要です。植物を栽培する農業にも、生活用品を作る工業にもたくさん水が使われています。そして、植物がよく育ち緑が豊富なことは、私たちの生活を豊かにしてくれま

す。水と緑はともに関係して自然が作り出す宝であり、私たちの生活に欠くことのできない物なのです。水は緑を豊かにする植物が育つのに大切な役割を果たしています。植物は、大地に根を伸ばし土の中から水分を取り入れています。このときの水は、植物が育つのに必要な養分が含まれています。根から取り入れた水は、茎・葉など全体に行きわたります。葉では、この水と空気中から吸収した二酸化炭素を使い、日光の力を

利用してでんぷんという養分を作ります。また、酸素を空気中に出します。こうして養分を運んだり、でんぷん作りに使われた水は、最後には蒸散という形で葉から空気中に出ていきます。このことは新しい水を取り入れたり、葉が日光に照らされても温度が上がらない働きや、空気中の酸素や水分を補うことにもなっています。

水は、食物が育つのに大変な働きをしていることになりました。水の働きによって植物がよく育つことは、緑を豊かにするとともに、私たちがはじめ動物の食べ物となる養分を作ったりします。また、空気中の酸素は、動物の呼吸に使われたり、物が燃えるために使われたりします。そのままだと、だんだん少なくなりませんが、植物が酸素を作り出し、空気中の酸素の量をいつも一定に保ち、空気をきれいにしてくれています。水と緑は深い関係をもちながら、生物の生命や私たちの生活を支えているわけです。水と緑は自然が作り出す『お宝』であり、私たちへの贈り物であり

ます。

水は浄化され、私たちの住んでいるところに流れてきます。なんとありがたい資源ではありません。だが、私たち人間の要求は、自然の水循環に甘えているだけでは満たされなくなっています。必要とする水の量がふえてきている一方で、汚れた排水が次の利用を妨げ私たちの健康にも、生態系にも悪影響を与えています。更に、水資源開発そのものが、この地球の自然に大きな傷をつけ、その傷はますます大きくなっているとも言われています。

地球的な規模でみると、水や緑が失われて、砂漠化などが進み私たちをはじめ生物の生活に悪い条件のところが増えてきていると言われています。私たちの地域は幸いにもまだ水と緑が豊かです。が、水と緑の働き、私たちの生活との関係を見直し、利用の工夫をするともに、いつまでも豊かな水と緑を保ち続ける努力が必要だと思います。

我が家には、梅雨の頃に咲くシャクヤクが十数本あります。この花は、ボタンの花に

似ていますが、豪華さがなく清楚な感じのする花と言われています。

この違いについて幸田露伴は、「牡丹は幹の老いからびて、しかも眼さましく艶なる花を開くところおもしろく、芍薬は細く清けなる新しき茎の上にて鮮やかに麗はしき花を開くところ美し。牡丹の花は重いげに、芍薬は軽げなり。牡丹の花は暗きようにて芍薬の花は明らかなるやうなり。牡丹は徳あり。芍薬は才あり。」と言っています。

中国では、ボタンの花が第一で、これを花王とし、シャクヤクの花は第二で、これを花相としています。シャクヤクという名前は、容姿が倬約とされていることから付けられたと言われています。山地などに自生しているヤマシャクヤクが原種でエビスグサ、ヌミグスリ、ヤマサケ、ヒトクサ、カオヨグサなどと呼ばれています。

アジサイもこの頃を代表する植物であります。アジサイは、ユキノシタ科の植物で、主に海岸に自生していたガクアジサイが、次第に改良され

たものと言われています。花の色は、緑・白・青紫・淡い紫などさまざま、少しずつ色の変化が見られるかわいいたのひとつです。花の色の変化は、土の質・湿度・日光のあたり方・水分・肥料・PHなど、さまざまなことが関係していると言われています。アジサイの花の色の神秘などを思いながら花を眺めたり、楽しんでできるのはこの季節ならではの楽しみです。

